

令和6年6月17日

大山町議会議長 米本 隆記 様

大山町議会議員 大森正治

## 大山町議会議員派遣報告書

1	目的	鳥取県町村議会広報研修会
2	派遣場所	三朝町 溪泉閣
3	期間	令和5年8月7日（月）
4	派遣議員	大森正治
5	報告	<p><b>【内容】</b></p> <p>講師：議会広報サポーター 芳野政明氏</p> <p>1. 講義「住民に読まれ、伝わる議会の見える化へ——議会広報の基本と編集」</p> <p>≪講義の内容≫ 項目を列挙</p> <p><b>Part 1 「議会だより」発行の意義・目的</b></p> <p>議会は町民と広聴・広報の充実によって太いパイプで結ばれると話され、次の点が議会広報のめざす点であると話された。</p> <p>≪議会広報でめざす点≫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・見える化</li><li>・民意の反映</li><li>・情報の共有</li><li>・説明責任</li><li>・機能発揮</li><li>・福祉の向上</li><li>・信頼の醸成</li><li>・住民参加</li><li>・まちづくり</li><li>・議会の認知</li></ul> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 議会広報の役割を機関として再確認を</li><li>2. 地方議会の本来の課題とは</li><li>3. 自治体の2大情報<ul style="list-style-type: none"><li>広報情報（行政発行の広報）</li><li>政策情報（議会だより）</li></ul></li><li>4. 自治体広報3つの分野</li><li>5. 戦前の「公報」から戦後の「広報」へ</li><li>6. 議会改革5つのメニュー<ul style="list-style-type: none"><li>活動活性化</li><li>開かれた議会・住民参加</li></ul></li><li>7. 「開かれた議会」へ2大要件</li><li>8. 議会への参加を高める広報の役割</li><li>9. 議会広報の進化へ6つの方向性</li></ol>

Part 2 議会報の編集方針、企画・編集

10. 目標を持って編集活動を
11. 編集方針：目的をもった制作  
編集の基本方針・編集方法を明文化→継承・拡充
12. ①議会の4大機能から4大企画+特集 へ  
②議会報の企画：主なテーマ  
③企画立案に際して必要な5要素

Part 3 伝わる広報へ編集スキルアップ～読みやすく、わかりやすく～

13. ①ページ割表（台割）ページネーション  
②読者をひきつける“ツカミ”
14. ①企画をカタチにするラフレイアウト  
②レイアウト3つの目標  
③読みたくなるレイアウト  
④多忙な読者を読む気にさせる仕掛け レイアウトの5要素（瞬時に内容把握）  
⑤レイアウト 5つの定石  
⑥レイアウト 5つのタブー
15. ①写真の活用—強く視線を誘導  
②写真のあつかい
16. 写真キャプションを的確に
17. ①見出しで読者を引き付ける  
②思わず読んでしまう見出し  
③本文が読みたくなる見出しへ～記事のポイントを抽出～  
④ご注意“NG見出し”  
⑤見出しの表現・目立たせ方
18. ①わかりやすい‘達意の文’  
②洋数字使用にもルールあり

Part 4 コンテンツ別の“進化”を見る

～住民に議会が伝わる企画編集～

19. 表紙をつくる<2つの役割がある>
20. コンテンツは「見出し」を出す
21. 本文の導入部(2～3 ページ)の見せ方
22. 予算・決算は議会報告で最重要企画
23. 議案とその審議を伝える
24. 討論を見せる
25. 議案の審議結果を伝える（内容を補足）
26. 委員会活動を伝える

27. 意見交換会とその反映
28. 特集企画に挑戦
29. ①一般質問のフォーマット（+独自企画）  
②一般質問 Q&A の記事・見出しでの注意点
30. 「追跡」は監視機能発揮の議会報版
31. 請願・陳情、意見書のあつかい
32. 議会制度や運営ルール、用語解説
33. 広聴企画、住民登場を多彩に

以上、芳野政明氏の講義資料より  
詳細は資料参照

#### 【所感】

久々に広報委員になって、広報研修会を新鮮な気持ちで受講した。

「議会だより」の基本と編集の仕方について学んだ。基本的な部分は何年か前に研修した内容とそれほど変わらず、おさらいをすることができたが、時代が変わり講師が変われば、切り込み方や強調のされ方に違いがあることを感じた。

民主主義の大原則から、議会だよりの編集においても住民本位の視点は編集者の姿勢として重要であるが、以前よりも「住民参加」が紙面に表れていることが必要な点として強調されていた。その点で、わが「議会だより だいせん」はいま住民参加の紙面づくりに力点を置いており、さらにこれに磨きをかけることが大切と思った。

有権者に限らず中学生から（小学 6 年生からでも）、議会だよりを手にとって読んでみたくなる議会だよりをめざして、表紙、写真とそのキャプション、レイアウト、見出し、わかりやすい文章など、いっそう進化させるために、チーム広報常任委員会が心を合わせ努力していくことが大切だろう。